

平成30年度 全国学力・学習状況調査結果を受けて

帯広市立豊成小学校長 沼田 拓己

1 実施日 平成30年4月17日

2 児童の実態（平成30年度全国学力・学習状況調査結果より）

「国語A：主として知識」

- すべての領域で、全国の平均正答率を上回っています。
- 道徳を校内研究の主軸に据えて取り組んでいるが、各教科においても課題とまとめを常に意識した授業改善に継続して努めてきた成果と考えられます。
- 日常の授業改善はもとより、読書活動の充実、朝読書、朝学習、宿題、日常の繰り返し学習、丁寧な個への指導の充実等の成果が表れていると考えられます。
- 全学年統一した学習規律の定着についても学級や教師よっての温度差なく、着実に行うよう取り組んだ成果が表れていると考えられます。
- ◆個別の設問の全12問においても全国を下回る問題はありませんでした。昨年度同様「書く領域」が全国と同程度でした。書いて説明したり、振り返りをしたりして充実を図っていきます。

「算数A：主として知識」

- すべての領域において、全国の平均正答率を上回っています。算数A全体としても全国平均を上回り、指導方法工夫改善加配による丁寧な個への指導の充実を図ったTT、習熟度別学習の成果が表れていると考えられます。
- ほとんどの設問に対して無回答率が低く、自らの考えをもつことができていることがわかります。半面、選択問題であるにもかかわらず無回答があったことを踏まえ、時間配分等も含め、指導の充実を図っていきます。
- ◆一方で、全国に比べ低かった設問は「円周率を求める式として正しいものを選ぶ」でした。【直径×円周率＝円周】は、理解しているものの、【円周率＝・・・】につまずく児童が多くみられました。習熟問題への取組の充実を図る必要があります。習熟度別少人数指導体制を更に充実させ授業改善を一層進めていきます。

「国語B：主として活用」

- 全体の正答率については、全国の平均正答率を若干ではあるが上回った。
- 校内研究を中心とした主体的・対話的で深い学びを視点とする授業改善の取組や朝読書の活動等の成果が表れていると考えられます。また国語の授業だけでなく学校生活の様々な場面で言語活動を意識した取組を推進してきた成果も表れてきたと考えられます。
- ◆全国平均を下回った設問は「話合いの参加者として、質問の意図を捉える」「目的に応じて、複数の本を選んで読む」でした。表現の方法や工夫に目を向けることを日常から意識させ、読む力や書く力を一層高めるよう指導する必要があると考えています。

「算数B：主として活用」

- ◆「数量関係」を除いた3領域において、全道の平均正答率を上回ったもののすべての領域で全国の平均正答率を下回った。下位層の割合が全国に比べやや高いことを踏まえ授業改善を進めていきます。
- ◆無回答率については、全国を上回るものはなかったものの、問題別にみると正答率が全国を上回ったものは10問中3問と活用・応用にかかわる問題への取組の必要性が浮き彫りとなりました。特に今後の本校の強化のポイントとして考えているのは「数量関係」の一層の強化です。低学年からの基礎・基本の確かな定着や、操作活動を行う学び・ICTを活用した授業改善等、より活動的な対応と視覚による理解の結び付きが重要だと考えています。

「学習状況調査より」

【全国の平均値に比べ顕著に高かった項目（抜粋）】

- 「自分にはよいところがある」 ○「先生はよいところを認めてくれる」 ○「将来の夢をもっている」
- 「いじめはどんな理由があってもいけないことと思う」 ○「家で学校の宿題をしている」
- 「家で予習・復習やテスト勉強などの自学自習において、教科書を使いながら学習している」
- 「算数の授業で問題の解き方や考え方がわかるようにノートに書いている」
- 「地域の大人に勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んだりする」
- 「理科の勉強は大切だと思う」 ○「理科の授業内容はよくわかる」

【改善を図っていかねばならない項目（抜粋）】

- ◆「学校以外の学習時間1時間以下」と答えた児童が全国より多くいます。
- ◆「テレビのニュース番組やインターネットのニュースをよく見る」割合が全国に比べ少なかったです。
- ◆「算数の授業で問題を解くときは諦めずにいろいろな方法を考える」の「当てはまる」の割合が全国に比べ少なかったです。
- ◆「国語B、算数Bの解答時間について」で「時間が余った」と答える児童の割合が少なかったです。

- (1) 全国学力・学習状況調査の結果から、国語においては、校内研修を窓口として授業改善に努めてきた成果が表れ、国語A、国語Bでは、前年度の目標である「全国平均を上回る」ことは達成できた。算数Aにおいては全国比を上回ったが、算数Bにおいては、全道と同等であり、全国比を若干下回り未達となった。今後は基礎・基本の定着に向けた指導を引き続き行うとともに、それらをもとにした活用力を身に付けるべく、授業改善や、朝学習、宿題・家庭学習の取組の充実、指導方法の工夫改善による細やかな個への対応などにより確かな学力の向上を目指していく。
- (2) 「家で学校の予習・復習をする」と回答する児童が全国平均を大きく上回った。これは、今年度も「家庭学習の手引き」を配付して、家庭と連携しながら家庭学習の習慣を定着させることに努めてきた成果の表れと考える。また、本校の特色であるキャリア教育の取組と関連させ、地域の教育力を活かすという観点も大切にしながら児童に働きかけていきたいと考えている。

3. 目標（「全国学力・学習状況調査」の結果を受けて）

- (1) 学習意欲を高め、社会で生きる実践的な力を身につけるために、地域（文教ゾーン）と連携しながら身近な課題に基づいた体験的・問題解決的な学習を重視した教科指導やキャリア教育の充実に引き続き努める。
- (2) 基礎的・基本的内容を確実に定着させるため、習熟度別少人数指導等、指導方法の工夫改善を図り、目標・指導・評価の一体化を重視した授業改善を行う。
 - ☆数値目標①・・・全国学力・学習状況調査の全ての領域において、全国平均正答率を**5%上回る**結果を残す。
 - ☆数値目標②・・・全学年の国語科及び算数科の各領域の単元テストにおいて、平成31年度4月までに**85点以上得点できる児童を8割以上**にする。
 - ☆数値目標③・・・全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる児童の割合を全国平均より**5%少なく**する。
- (3) 家庭と連携し、家庭学習習慣の確立を図る。
 - ☆数値目標④・・・4～6学年において、学校の授業時間以外に1日当たり（学年×10+10）分、勉強していると回答する児童の割合を**8割以上**にする。

4. 改善方策

- (1) 今回及び今後の各種調査結果の分析と課題と成果の共有化を常に図り指導に生かすとともに、解き直しの機会を設け、確実に全員が理解することを目指す。
 - ・全国学力・学習状況調査、全学年CRT、全学年チャレンジテスト、WEBシステム・フォロー・サポート問題等
- (2) 全校共通の取組を推進する。
 - ・教室環境、学習規律の徹底、校内研究とリンクした学習過程、ノート指導（板書とノートの一体化）、課題とまとめを明示した一単位時間の授業づくり、授業の終末の定着時間の重視、生徒指導の充実等
- (3) 校内研究と公開研究会での検証を生かした授業改善に努める。
 - ・主体的に学び、共に伸びる子どもの育成
 - ・心を耕す道徳教育の充実
 - ・特別支援教育の手法を取り入れた効果的な指導の充実
- (4) 習熟度別少人数指導を重視した授業づくりを行う。
 - ・低学年の定着漏れの回避を重視する。
 - ・すべての児童にわかる喜び、できた喜びを味わわせる。
 - ・習熟度別少人数指導をより効果的に行うための指導方法の研究を進める。
- (5) 朝学習・朝読書の効果的な取組を推進する。
（基礎・基本の徹底、計画的・継続的な実践、保護者との連携）
- (6) 家庭学習の手引き、生活リズムチェックシートを配付し、学習習慣や望ましい生活習慣を確立するための家庭への啓発の継続化を図る。
 - ・家庭との情報の「交信」を意識し取組を進める。
 - ・家庭との連携をより深めていくための手立てについて工夫する。
- (7) 放課後や長期休業日等における補充学習を実施する。
（放課後居場所づくり事業との連携も視野に入れながら）

家庭へのお願い

家庭での学習習慣が学力に大きく影響します。今回の調査においては、予習・復習を行っていることがわかりましたが、同時に学習時間が全国に比べ学習時間が少ないこともわかりました。家庭学習の手引きでは、（学年×10+10）分を目安にして、学習を進めるようご家庭でも言葉掛けお願いいたします。